

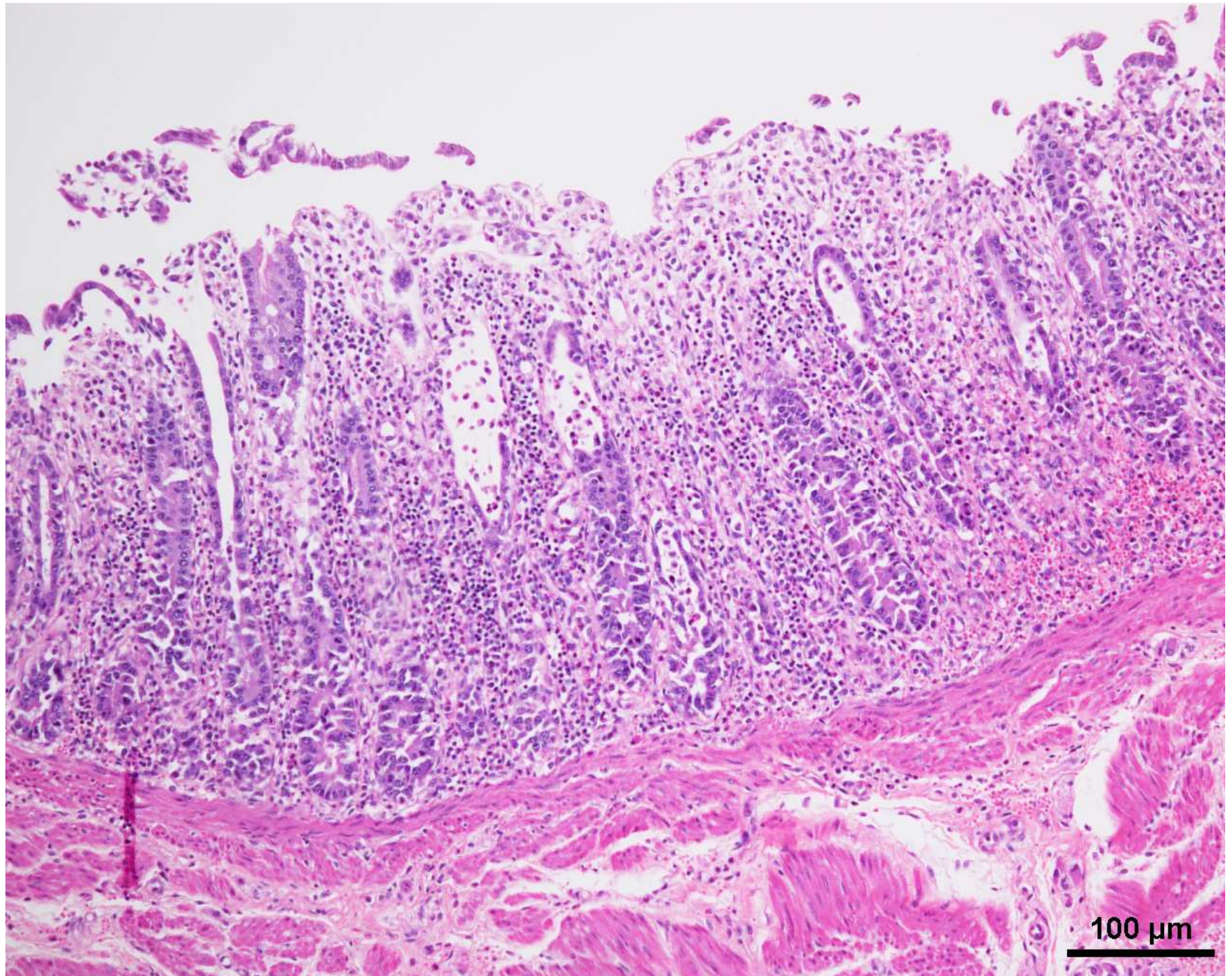
2018-9-4

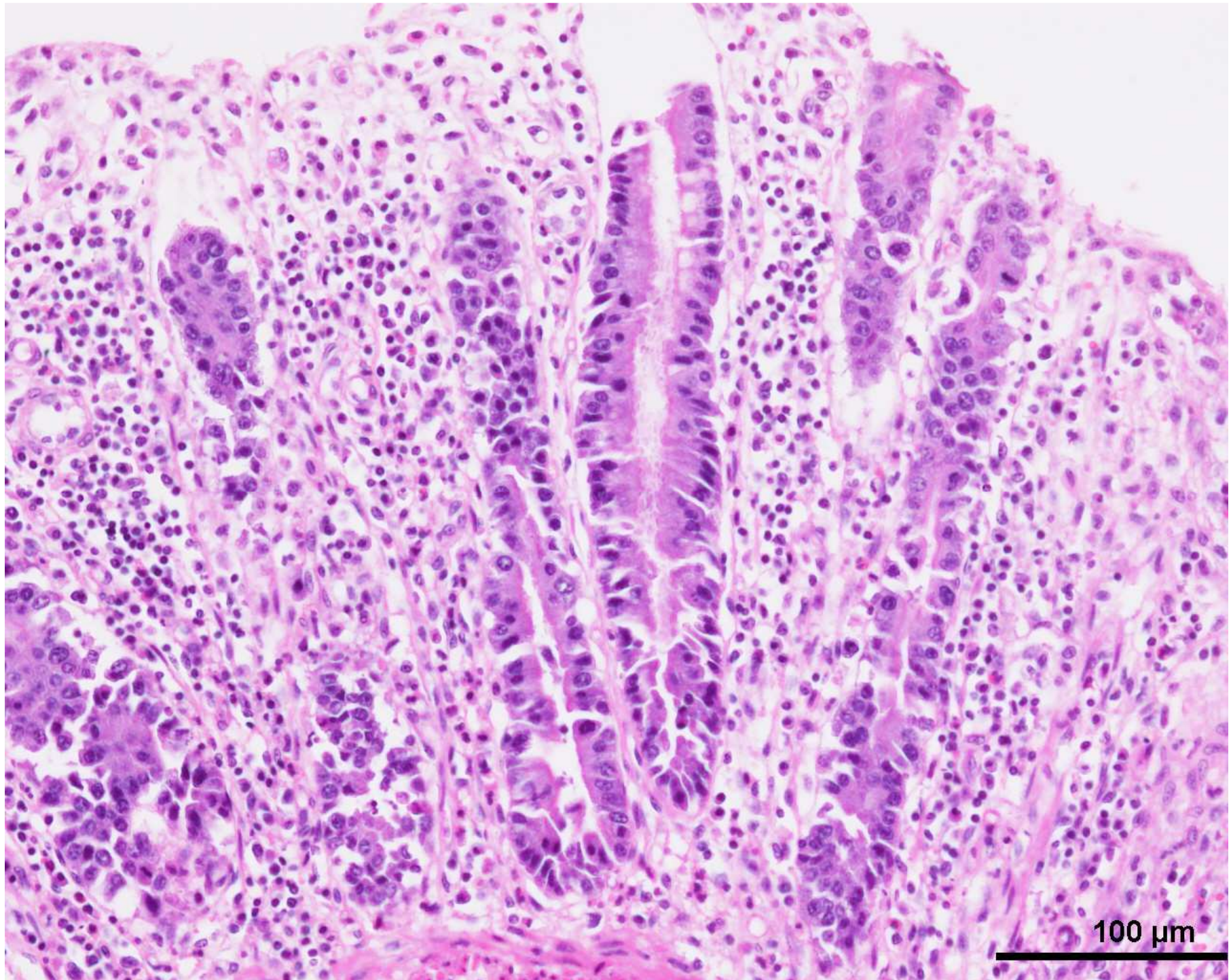
牛 大腸

山本彩加

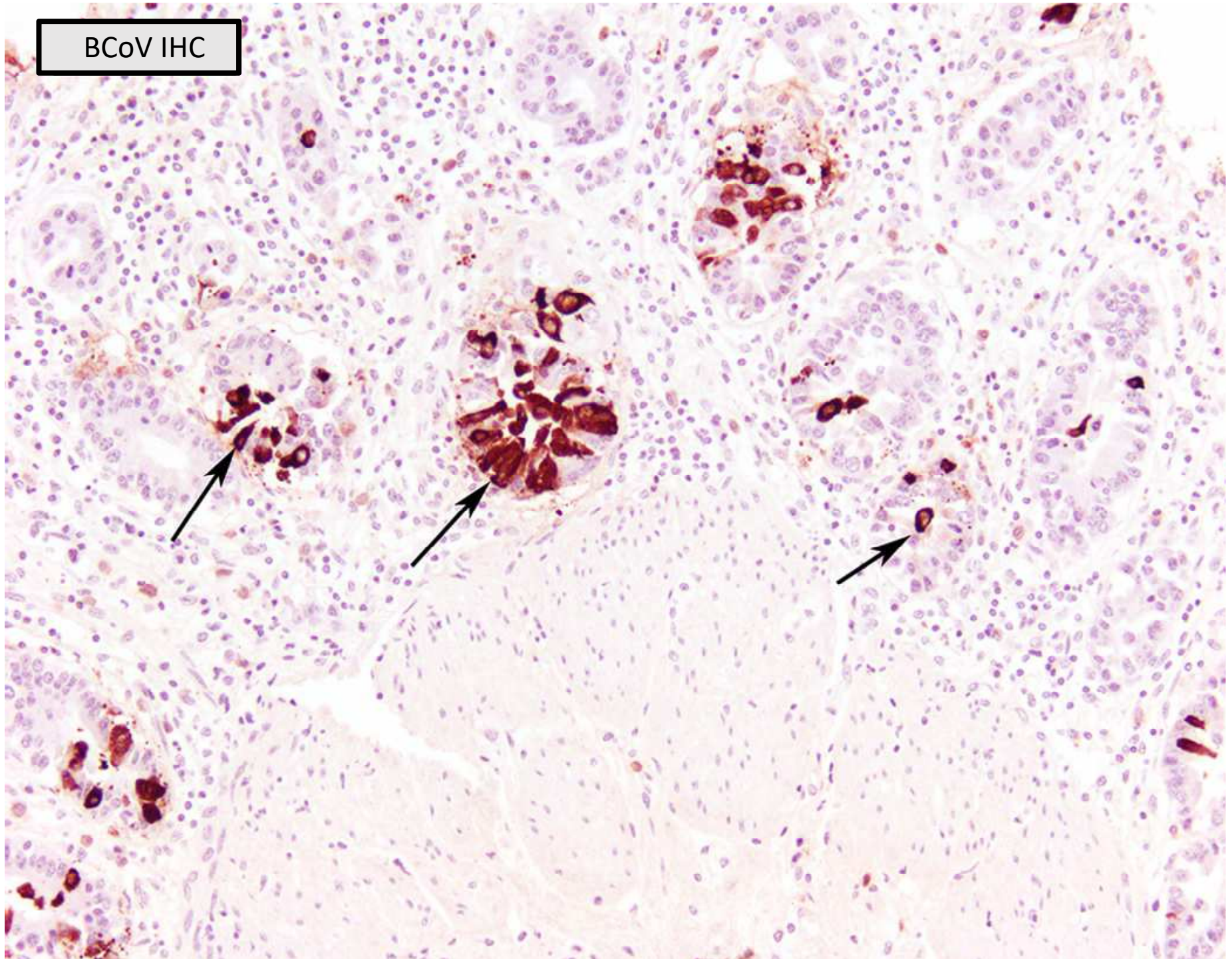
- 提出機関； Oklahoma State University, USA
- 症例； 牛、アンガス種、未去勢雄、13ヶ月齢
- 病歴； 同一農場の2頭の13ヶ月齢の牛が急性の大量の血様下痢を呈した。
1頭は死亡し剖検を実施。他の1頭は対症療法で完全に回復。
- 肉眼所見； 円盤結腸の近位から腸内容物が正常なものから凝血塊を含む血様に変化。遠位結腸粘膜において点状から癒合性の出血病変と約0.5×0.2cmの軽度粘膜潰瘍病変を複数確認。
- 検査結果； 結腸および糞便の細菌培養により *E. coli*、*Streptococcus bovis*、*Clostridium perfringens* Type Aが分離されたが、死因には関与せず日和見細菌と判断された。
コクシジウムを含む寄生虫の糞便浮遊法検査は陰性。







BCoV IHC



提出者の診断

大腸、遠位結腸：潰瘍性結腸炎、リンパ球形質細胞性及び出血性、多発巣状性の結腸上皮壊死及び結腸陰窩崩壊を伴う、重度。

Large intestine, distal colon: Ulcerative colitis, lymphoplasmacytic and hemorrhagic with multifocal colonic epithelial necrosis and colonic gland collapse, severe.

JPCの診断

結腸：結腸炎、壊死潰瘍性、出血性、びまん性、重度、結腸陰窩の著しい消失および多発巣状性陰窩膿瘍を伴う。

Colon: Colitis, necroulcerative and hemorrhagic, diffuse, severe with marked loss of glands and multifocal crypt abscessation.

提出者のコメント

- コロナウイルスは①子牛の新生仔下痢（生後1日～30日、下痢は1～2週齢が最も一般的）②子牛の幅広い年齢層の呼吸器疾患（2～19週齢）③乳牛
- まれに肉牛の成牛の冬季赤痢を引き起こす。
- 冬季赤痢は主に成体の乳牛でみられる散発性の急性の伝染性の出血性腸炎。臨床所見はこげ茶色、出血性、水様、そして一般的に大量の下痢、しばしば随伴性食欲不振、沈鬱状態、脱水症を伴う。高い罹患率（50～100%）および低い死亡率（1～2%）が特徴。特に泌乳中の乳量に関して、著しい経済的損失を及ぼす。
- 冬季赤痢では結腸陰窩の上皮細胞がウイルスによって破壊され陰窩上皮の変性および壊死をもたらす。結腸からの出血とそれによる赤色血様下痢が特徴。

JPCのコメント

- 本症例は2012～2013年の間に異なる2つの農場において発生がみられた4症例のうちの1例である。
- この症例では強い壊死性結腸炎が認められ斃死している。全頭で蛍光抗体染色(FA)および免疫染色(IHC)で牛コロナウイルスの抗原を検出。ウイルス分離陽性。